

V

參考資料

V 参考資料

1. 農業経営の基本的指標

(栗山町農業経営基盤強化促進基本構想 平成 29 年 1 月策定)

効率的かつ安定的な農業経営の指標として、本町の先進的な経営事例をもとに実現可能な経営類型を例示します。

※トラクター馬力表記 0.75kw = 約 1 馬力

(1) 個別経営体

1、水稻専業

経営規模	生産方式	経営の方向と 経営管理の方法	農業従事の態様等
【作付面積等】	【機械施設装備】		【労働】
◇ 水稻 25.0ha (移植 20ha、直播 5ha)	◇ 乗用型トラクター (51kw) 1 台	◇ 水稻に直播栽培を導入し規模拡大	◇ 家族 2 人 1,930 時間
計 25.0ha	◇ 農用トラック (軽トラック) 1 台	◇ パソコンによる経営計画、労務、財務、ほ場管理	◇ 雇用 340 時間 (主たる従事者)
	◇ 農用トラック (2t ダンプ) 1 台	◇ 作目別原価の把握と分析	1,490 時間 / 1 人)
	◇ 乗用田植機 (8 条) 1 台		【経営収支】
	◇ 自脱型コンバイン 1 台		◇ 農業粗収益 3,010 万円
	◇ 乾燥施設・機械 1 式		◇ 農業経営費 2,320 万円
	◇ 籾すり機等 1 式		◇ 農業所得 690 万円 (主たる従事者 530 万円 / 人)
	◇ 育苗ハウス (水稻用) 10 棟		
	◇ クローラトラクター (59kw) } 共同 利用		
	◇ 乾田直播専用施肥播種機 } ◇ 乗用管理機 } ◇ 稲ワラ収集機 }		
	【その他】		
	◇ 水稻移植栽培は、成苗により高品質、良食味米の安定生産		
	◇ 一部乾田直播栽培により、省力・低コスト技術を採用		

2、水稲野菜複合①

経営規模	生産方式	経営の方向と 経営管理の方法	農業従事の態様等
【作付面積等】	【機械施設設備】		【労働】
◇水稲 14.0ha ◇トマト 0.5ha 計 14.5ha	◇乗用型トラクター(37kw) 1台 ◇農用トラック(2t) 1台 ◇乗用田植機(8条) 1台 ◇自脱型コンバイン 1台 ◇育苗ハウス(水稲用) 7棟 ◇トマトハウス(6×50m) 10棟 ◇クローラトラクター(59kw) } 共同 ◇稲ワラ収集機 } 利用 【その他】 ◇高品質・良食味米の安定生産 ◇無人ヘリコプターによる防除を 作業委託 ◇米共同乾燥調製施設の利用 ◇トマトは、半促成作型、長期取り (6～10月出荷)で高収量を確保 し労働の季節偏差を縮小	◇施設野菜を組み合わ せた複合経営 ◇パソコンによる経営 計画、労務、財務、 ほ場管理 ◇作目別原価の把握と 分析 ◇市場動向に的確に対 応した計画的生産・ 販売 ◇共同施設を利用し作 業の効率化	◇家族 3人 5,000時間 ◇雇用 1,310時間 (主たる従事者 2,000時間/1人) 【経営収支】 ◇農業粗収益 3,600万円 ◇農業経営費 2,450万円 ◇農業所得 1,150万円 (主たる従事者 460万円/人)

3、水稲野菜複合②

経営規模	生産方式	経営の方向と 経営管理の方法	農業従事の態様等
【作付面積等】	【機械施設設備】		【労働】
◇水稲 15.0ha ◇メロン 0.7ha 計 15.7ha	◇乗用型トラクター(37kw) 1台 ◇歩行型トラクター(3.7kw) 1台 ◇農用トラック(軽トラック) 1台 ◇乗用田植機(8条) 1台 ◇自脱型コンバイン 1台 ◇育苗ハウス(水稲用) 7棟 ◇メロンハウス(6×50m) 14棟 ◇クローラトラクター(59kw) } 共同 ◇稲ワラ収集機 } 利用 【その他】 ◇高品質・良食味米の安定生産 ◇無人ヘリコプターによる防除を 作業委託 ◇米共同乾燥調製施設の利用 ◇メロンは半促成作型により水稲と の労働競合を回避し長期安定出荷	◇施設野菜を組み合わ せた複合経営 ◇パソコンによる経営 計画、労務、財務、 ほ場管理 ◇作目別原価の把握と 分析 ◇市場動向に的確に対 応した計画的生産・ 販売 ◇共同施設を利用し作 業の効率化	◇家族 3人 3,550時間 ◇雇用 670時間 (主たる従事者 2,000時間/1人) 【経営収支】 ◇農業粗収益 2,770万円 ◇農業経営費 1,930万円 ◇農業所得 840万円 (主たる従事者 470万円/人)

4、水稲野菜複合③

経営規模	生産方式	経営の方向と 経営管理の方法	農業従事の態様等
【作付面積等】 ◇水稲 5.0ha ◇長ねぎ 1.2ha ◇南瓜 1.0ha ◇ほうれんそう 0.1ha 計 7.3ha	【機械施設装備】 ◇乗用型トラクター(37kw) 1台 ◇歩行型トラクター(3.7kw) 1台 ◇農用トラック(軽トラック) 1台 ◇乗用田植機(6条) 1台 ◇自脱型コンバイン 1台 ◇育苗ハウス(水稲用) 2棟 ◇ほうれんそうハウス(6×50m)2棟 ◇長ねぎ収穫機 共同利用 【その他】 ◇水稲の防除、乾燥調製は外部委託 ◇ねぎ、ほうれんそうは長期出荷作型で労働の季節偏差を縮小	◇野菜作に特化しつつ水稲作付面積の維持 ◇パソコンによる経営計画、労務、財務、ほ場管理 ◇作目別原価の把握と分析 ◇市場動向に的確に対応した計画的生産・販売	【労働】 ◇家族 2人 3,050時間 ◇雇用 950時間 (主たる従事者 2,000時間/1人) 【経営収支】 ◇農業粗収益 2,370万円 ◇農業経営費 1,620万円 ◇農業所得 750万円 (主たる従事者 490万円/人)

5、水稲畑作野菜複合

経営規模	生産方式	経営の方向と 経営管理の方法	農業従事の態様等
【作付面積等】 ◇水稲 15.0ha (移植10ha、直播5ha) ◇小麦 6.0ha (春播き2ha、秋播き4ha) ◇大豆 3.0ha ◇キャベツ 1.0ha 計 25.0ha	【機械施設装備】 ◇乗用型トラクター(51kw) 1台 ◇歩行型トラクター(3.7kw) 1台 ◇農用トラック(2tダンプ) 1台 ◇乗用田植機(8条) 1台 ◇汎用型コンバイン 1台 ◇野菜移植機 1台 ◇育苗ハウス(水稲用) 5棟 ◇クローラトラクター(59kw) } ◇湛水直播機 } 共同 ◇総合直播機 } 利用 ◇乗用管理機 } ◇稲ワラ収集機 } 【その他】 ◇無人ヘリコプターによる防除を作業委託 ◇需給動向と栽培適地・栽培特性に即した品種の選択 ◇米麦共同乾燥調製施設の利用	◇水稲に直播栽培を導入し規模拡大、転作畑作物と露地野菜を組合せた複合経営 ◇春まき小麦の作付けにより麦連作を回避 ◇パソコンによる経営計画、労務、財務、ほ場管理 ◇作目別原価の把握と分析 ◇市場動向に的確に対応した計画的生産・販売	【労働】 ◇家族 2人 2,140時間 ◇雇用 120時間 (主たる従事者 1,560時間/1人) 【経営収支】 ◇農業粗収益 3,160万円 ◇農業経営費 2,230万円 ◇農業所得 930万円 (主たる従事者 680万円/人)

6、水稲畑作複合

経営規模	生産方式	経営の方向と 経営管理の方法	農業従事の態様等
【作付面積等】 ◇水稲 4.0ha ◇小麦 8.0ha (春播き4ha、秋播き4ha) ◇大豆 4.0ha ◇種子馬鈴しょ 4.0ha ◇南瓜 1.0ha ◇休閒緑肥 3.0ha 計 24.0ha	【機械施設装備】 ◇乗用型トラクター(51kw) 1台 ◇歩行型トラクター(3.7kw) 1台 ◇農用トラック(2tダンプ) 1台 ◇乗用田植機(6条) 1台 ◇汎用型コンバイン 1台 ◇育苗ハウス(水稲用) 2棟 ◇クローラトラクター(59kw) ◇総合播種機 ◇ポテトプランター ◇ポテトハーベスター ◇稲ワラ収集機 } 共同利用 【その他】 ◇無人ヘリコプターによる防除を作業委託 ◇米麦共同乾燥調製施設の利用 ◇種子馬鈴しょは共同作業を実施	◇中山間地域における水稲+種子馬鈴しょを中心とした畑作の複合経営 ◇持続可能な輪作体系確立のため休閒緑肥を導入 ◇パソコンによる経営計画、労務、財務、ほ場管理 ◇作目別原価の把握と分析	【労働】 ◇家族 2人 2,050時間 ◇雇用 120時間 (主たる従事者 1,560時間/1人) 【経営収支】 ◇農業粗収益 2,720万円 ◇農業経営費 1,770万円 ◇農業所得 950万円 (主たる従事者 720万円/人)

7、水稲肉用牛複合

経営規模	生産方式	経営の方向と 経営管理の方法	農業従事の態様等
【作付面積等】 ◇水稲 15.0ha ◇牧草 10.0ha 計 25.0ha 【飼養頭数】 ◇繁殖牛 30頭 ◇育成牛等 25頭	【機械施設装備】 ◇乗用型トラクター(59kw) 1台 ◇農用トラック(2tダンプ) 1台 ◇乗用田植機(6条) 1台 ◇自脱型コンバイン 1台 ◇乾燥機 1棟 ◇育苗ハウス(水稲用) 7棟 ◇牛舎(257㎡) 1棟 ◇堆肥舎(238㎡) 1棟 ◇クローラトラクター(59kw) ◇乗用管理機 ◇稲ワラ収集機 ◇牧草収穫機械 } 共同利用 【その他】 ◇無人ヘリコプターによる防除を作業委託 ◇米共同乾燥調製施設の利用	◇部門間で副産物や農機具の有効活用 ◇肉牛は既存施設の改築、簡易牛舎の利用による低コスト化 ◇地域の転作牧草を調達し飼料費の削減 ◇パソコンによる経営計画、労務、財務、ほ場管理 ◇部門別原価の把握と分析	【労働】 ◇家族 3人 4,010時間 ◇雇用 40時間 (主たる従事者 2,000時間/1人) 【経営収支】 ◇農業粗収益 3,190万円 ◇農業経営費 2,050万円 ◇農業所得 1,140万円 (主たる従事者 570万円/人)

8、畑作肉用牛複合

経営規模	生産方式	経営の方向と 経営管理の方法	農業従事の態様等
【作付面積等】 ◇秋小麦 8.0ha ◇大豆 4.0ha ◇南瓜 3.0ha ◇牧草 10.0ha 計 25.0ha 【飼養頭数】 ◇繁殖牛 30頭 ◇育成牛等 25頭	【機械施設装備】 ◇乗用型トラクター(59kw) 1台 ◇農用トラック(2tダンプ) 1台 ◇総合播種機 1台 ◇汎用型コンバイン 1台 ◇牛舎(257㎡) 1棟 ◇堆肥舎(238㎡) 1棟 ◇クローラトラクター(59kw) } 共同 ◇牧草収穫機械 } 利用 【その他】 ◇無人ヘリコプターによる防除を 作業委託 ◇麦共同乾燥調製施設の利用	◇部門間で副産物や農 機具の有効活用 ◇肉牛は既存施設の改 築、簡易牛舎の利用 による低コスト化 ◇地域の転作牧草を調 達し飼料費の削減 ◇パソコンによる経営 計画、労務、財務、 ほ場管理 ◇部門別原価の把握と 分析	【労働】 ◇家族 3人 3,710時間 ◇雇用 40時間 (主たる従事者 2,000時間/1人) 【経営収支】 ◇農業粗収益 3,060万円 ◇農業経営費 1,800万円 ◇農業所得 1,160万円 (主たる従事者 620万円/人)

9、畑作野菜複合①

経営規模	生産方式	経営の方向と 経営管理の方法	農業従事の態様等
【作付面積等】 ◇秋小麦 4.0ha ◇玉ねぎ 8.0ha 計 12.0ha	【機械施設装備】 ◇乗用型トラクター(51kw) 1台 ◇農用トラック(2tダンプ) 1台 ◇玉ねぎ移植機 1台 ◇玉ねぎ収穫機 1台 ◇育苗ハウス(玉ねぎ用) 4棟 【その他】 ◇小麦の主要作業は外部委託	◇玉ねぎを中心とした 複合経営 ◇パソコンによる経営 計画、労務、財務、 ほ場管理 ◇作目別原価の把握と 分析 ◇市場動向に的確に対 応した計画的生産・ 販売 ◇外部委託による作業 の効率化	【労働】 ◇家族 2人 2,350時間 ◇雇用 120時間 (主たる従事者 1,800時間/1人) 【経営収支】 ◇農業粗収益 2,500万円 ◇農業経営費 1,550万円 ◇農業所得 950万円 (主たる従事者 720万円/人)

10、畑作野菜複合②

経営規模	生産方式	経営の方向と 経営管理の方法	農業従事の態様等
【作付面積等】 ◇秋小麦 10.0ha ◇大豆 5.0ha ◇種子馬鈴しょ 5.0ha ◇甜菜 3.0ha ◇南瓜 3.0ha ◇休閒緑肥 2.0ha 計 28.0ha	【機械施設装備】 ◇乗用型トラクター(81kw) 1台 ◇乗用型トラクター(59kw) 1台 ◇農用トラック(4t ダンプ) 1台 ◇総合播種機 1台 ◇汎用型コンバイン 1台 ◇ポテトプランター 1台 ◇ポテトハーベスター 1台 ◇豆乾燥機 1台 ◇ビート移植機 } 共同 ◇ビート収穫機 } 利用 【その他】 ◇無人ヘリコプターによる防除を作業委託 ◇麦共同乾燥調製施設を利用	◇中山間地域における畑作中心の複合経営 ◇持続可能な輪作体系の確立 ◇パソコンによる経営計画、労務、財務、ほ場管理 ◇作目別原価の把握と分析	【労働】 ◇家族 2人 2,850時間 ◇雇用 1,280時間 (主たる従事者 2,000時間/1人) 【経営収支】 ◇農業粗収益 4,280万円 ◇農業経営費 3,590万円 ◇農業所得 690万円 (主たる従事者 480万円/人)

11、野菜専業

経営規模	生産方式	経営の方向と 経営管理の方法	農業従事の態様等
【作付面積等】 ◇トマト (促成) 0.25ha (半促成) 0.90ha (夏秋どり) 0.45ha (抑制) 0.15ha 計 1.75ha	【機械施設装備】 ◇乗用型トラクター(22kw) 1台 ◇歩行型トラクター(3.7kw) 1台 ◇農用トラック(軽トラック) 1台 ◇トマトハウス(6×50m) 35棟 【その他】 ◇4作型を組み合わせることで労働の平準化と所得の確保を図る	◇高収益野菜に特化した所得の確保 ◇部会活動により生産技術の向上 ◇パソコンによる経営計画、労務、財務、ほ場管理 ◇原価の把握と分析 ◇市場動向に的確に対応した計画的生産・販売 ◇GAPの取組推進	【労働】 ◇家族 3人 4,800時間 ◇雇用 6,000時間 (主たる従事者 2,000時間/1人) 【経営収支】 ◇農業粗収益 4,040万円 ◇農業経営費 2,970万円 ◇農業所得 1,070万円 (主たる従事者 450万円/人)

(2) 組織経営体

水稻畑作野菜複合

経営規模	生産方式	経営の方向と 経営管理の方法	農業従事の態様等
【作付面積等】 ◇ 水稻 60.0ha (移植40ha、直播20ha) ◇ 秋小麦 25.0ha ◇ 大豆 25.0ha ◇ キャベツ 4.0ha ◇ 長ねぎ 3.0ha ◇ ブロッコリー 3.0ha 計 120.0ha 【構成員戸数】 5戸	【機械施設装備】 ◇ 乗用型トラクター(37kw) 5台 ◇ 乗用型トラクター(74kw) 2台 ◇ クローラトラクター(59kw) 1台 ◇ 農用トラック(2t) 3台 ◇ 農用トラック(軽トラック) 5台 ◇ 田植機(乗用8条) 2台 ◇ 乾田直播施肥播種機 2台 ◇ 乗用管理機 1台 ◇ 汎用型コンバイン 2台 ◇ 全自動野菜移植機 2台 ◇ 稲わら収集機 1台 ◇ 育苗ハウス(水稻用) 20棟 ◇ 育苗ハウス(ねぎ用) 5棟 ◇ 事務所 1棟 【その他】 ◇ 無人ヘリコプターによる防除を作業委託 ◇ 米共同乾燥調製施設を利用 ◇ 需給動向と栽培敵地・栽培特性に即した品種の選択 ◇ 露地野菜は作期を分散して長期継続出荷し、労働の季節偏差を縮小 ◇ セル成型苗による機械移植による省力化	◇ 研修生1名を採用し、若手構成員を含めた担い手育成機能 ◇ 水稻直播栽培と露地野菜の組み合わせで労働力の有効活用 ◇ パソコンによる経営計画、財務、ほ場管理 ◇ 作目別原価の把握と分析 ◇ 市場動向に的確に対応した計画的生産・販売 ◇ 労務管理(人事、教育、福利厚生等)の充実	【労働】 ◇ 構成員家族13人 14,340時間 ◇ 研修生 1人 ◇ 雇用 3,190時間 (主たる従事者 1,800時間/1人) 【経営収支】 ◇ 農業粗収益 18,080万円 ◇ 農業経営費 12,210万円 ◇ 農業所得 5,870万円 (主たる従事者 730万円/人)

(3) 新規就農者

野菜専業

経営規模	生産方式	経営の方向と 経営管理の方法	農業従事の態様等
【作付面積等】 ◇トマト (促成) 0.15ha (半促成) 0.45ha (夏秋どり) 0.15ha 計 0.75ha	【機械施設装備】 ◇乗用型トラクター(22kw) 1台 ◇歩行型トラクター(3.7kw) 1台 ◇農用トラック(軽トラック) 1台 ◇トマトハウス(6×50m) 15棟 【その他】 ◇3作型を組み合わせることで労働の平準化と所得の確保を図る	◇高収益野菜に特化し所得の確保 ◇部会活動により生産技術の向上 ◇パソコンによる経営計画、労務、財務、ほ場管理 ◇原価の把握と分析 ◇市場動向に的確に対応した計画的生産・販売	【労働】 ◇家族 2人 3,600時間 ◇雇用 1,460時間 (主たる従事者 2,000時間/1人) 【経営収支】 ◇農業粗収益 1,750万円 ◇農業経営費 1,290万円 ◇農業所得 460万円 (主たる従事者 260万円/人)

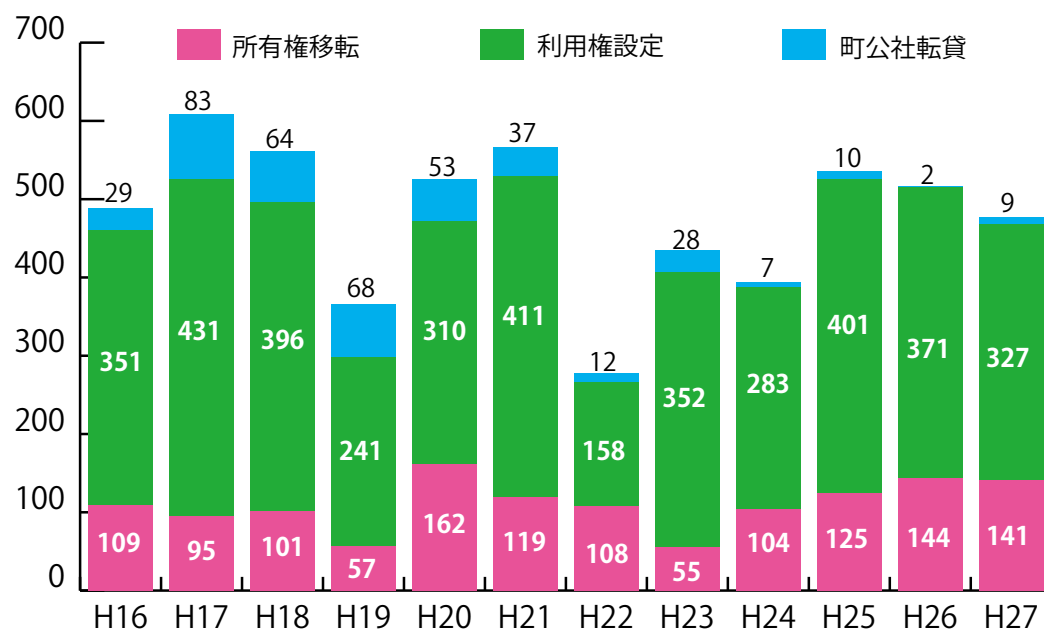


2. 農地の動き

【図1】農地の動き（単位：ha）

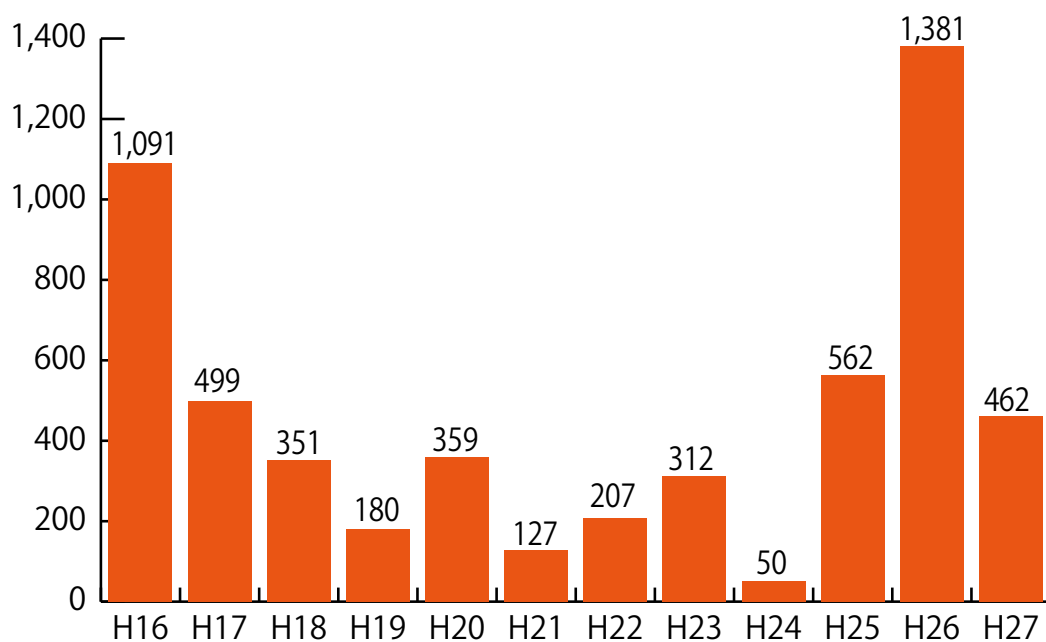
※所有権移転は「農地法第3条」「農業経営基盤強化法」による売買、贈与の合計

※利用権設定は「農地法第3条」「農業経営基盤強化法」による賃貸借、使用貸借の合計
（町公社による転賃は含まず）



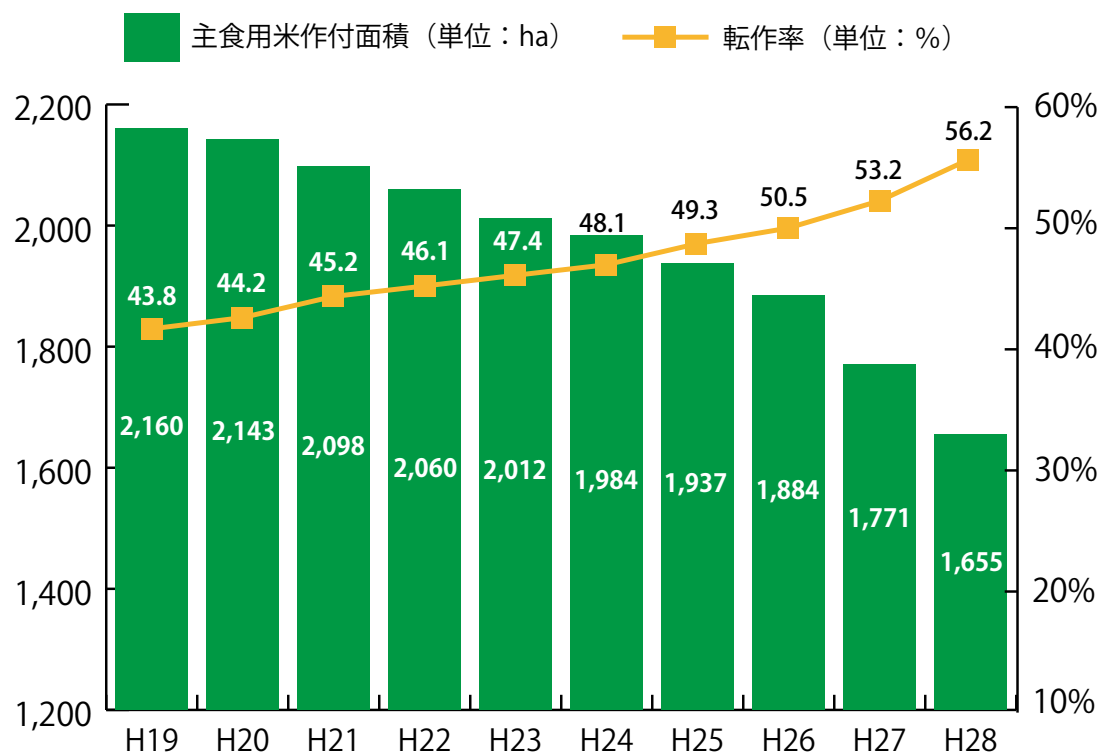
【図2】農地転用実績（単位：a）

※農地法第4条及び第5条による農地転用面積の合計



3. 主食用米作付面積と転作率

【図1】主食用米作付面積と転作率 ※JAそらち南資料より



4. 町公社の新規就農受け入れのスタンス

町公社では「幅広い受け入れ間口と多様な就農」を目指し、下記のスタンスで新規就農希望者を受け入れしています。

就農スタイル	栽培品目の限定はしない (本町は多種多様な農作物生産が可能です)
年齢・性別	年齢は原則として国の支援制度対象年齢としますが、対象年齢を超えていても本人の条件意欲等により対応します。また、性別についても区別はしません。 (多様な就農の可能性を検討します)
家族構成	同居家族の有無について指定はしません。しかし、日々の農作業と営農の支えとして家族は心強い存在となります。
自己資金	受け入れ条件とはしません。しかし、就農は起業することであり、営農と生活のための資金あるいは住宅購入資金は必要となります。
研修先	新規就農者受入育成に関心が高い農家とします。
研修人数	受け入れ人数の限定はしません。公社の研修者用住居に入居できる範囲とします。
受入決定	本人の意欲と体験来町、そして数回の面談によりマッチングします。



平成 28 年 4 月に開催された新規就農者や研修生が一同に介した交流会

5. 農家アンケート

平成28年2月に実施した農家アンケートの調査票です。貴重なご意見は「Ⅲ－2 農業経営者意向調査からの課題」の整理に活用されました。

栗山町農家意向調査票

設問項目に「○」または直接記入で回答をお願いします。

氏名・ 法人名		住所	
------------	--	----	--

I あなたの経営についてお聞きします。

1. あなたの年齢は、どれにあたりますか(法人の場合は代表者の年齢)。(回答は1つ)

① 29歳以下	② 30～39歳	③ 40～49歳
④ 50～59歳	⑤ 60～69歳	⑥ 70歳以上

2. あなたを含め家族(法人の場合は構成員)とそのうち、農業に従事されている方の人数を記入してください。

区分	性別	合計	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
家族・ 構成員	男							
	女							
うち、農 業 従事者	男							
	女							

- 1) あなたの家族(法人の場合は構成員・従業員)のうち、農業後継者はいますか。(回答は1つ)

① 既に就農している	② 決まっているが就農はしていない	③ いない	④ わからない
------------	-------------------	-------	---------

3. 雇用している労働力(パート、季節雇用、常勤等)の人数を記入してください。

性別	合計	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
男							
女							

4. あなたの経営面積はどのくらいですか。なお、経営面積のうち、借入面積はどのくらいですか。面積を記入してください。そして、このほかに貸し付けている面積があれば、記入してください。

経営面積	ha
うち借入面積	ha
貸付面積	ha

5. あなたの経営で困っていることは何ですか。(複数回答可能)

① 後継者がいない	② 労働力が不足	③ 農地条件が悪い	④ 農地が不足
⑤ 借入金が多い	⑥ 機械・施設の設備資金が不足	⑦ 経営が厳しい	
⑧ 農業情勢・農政の見通しが立たない	⑨ その他()		

6. 今後、経営面積はどうする予定ですか。(回答は1つ)

① 規模拡大する	② 現状維持	③ 規模縮小する	④ 離農して現在地に居住する
⑤ 離農して市街地または他の市町村に転出する	⑥ その他()		

栗山町農家意向調査票

設問項目に「○」または直接記入で回答をお願いします。

8. 現在、農業生産以外で取り組んでいる部門はありますか。(複数回答可能)

- | | | | |
|--------------|-----------|-----------|----------|
| ① 直売部門 | ② 農畜産物の加工 | ③ 農畜産物の輸出 | ④ 作業受託部門 |
| ⑤ グリーン・ツーリズム | ⑥ 他産業への従事 | ⑦ 特にない | |
| ⑧ その他() | | | |

9. 今後の取り組み課題として何を考えていますか。(複数回答可能)

- | | | | |
|------------|--------------|---------------|------------|
| ① 雇用労働力の確保 | ② 負債軽減 | ③ 法人化 | ④ 減農薬・有機栽培 |
| ⑤ 独自販売・直売所 | ⑥ 新規作物・家畜の導入 | ⑦ 共同組織(集落営農等) | ⑧ 農産物加工 |
| ⑨ 食品会社との連携 | ⑩ グリーンツーリズム | ⑪ 離農に向けた資産処分 | ⑫ その他 |

II 栗山町での営農や生活についてお聞きします。

10. あなたは栗山町の営農や生活面での活動が、過去10年程度でどのように変化したと感じますか。(回答は1つ)

- | | | |
|----------|--------|-----------|
| ① 活発になった | ② 停滞した | ③ よくわからない |
|----------|--------|-----------|

11. 栗山町での営農や生活の中で、困っていることは何ですか。(複数回答可能)

- | | | |
|-----------|------------------------------|----------------|
| ① 農家戸数の減少 | ② 農地保全 | ③ 会合や行事の集まりが悪い |
| ④ 担い手の不足 | ⑤ 共同施設(水利施設・公民館・神社等)の管理ができない | |
| ⑥ 介護問題 | | |
| ⑦ その他() | | |

12. あなたは栗山町の農地問題に対して、どのように取り組むべきかと考えますか。(回答は2つ)

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| ① 何も取り組む必要はない | ② 公的な支援制度を活用し農地売買の調整に取り組む |
| ③ 農地利用の効率化を目指し、交換分合事業に取り組む | |
| ④ 地域の農地の受け皿法人を育成する | |
| ⑤ 農業委員が中心となって農地の利用調整を行う | |
| ⑥ コントラクター等の営農支援組織の設立・育成 | |
| ⑦ その他() | |

13. あなたは栗山町の担い手問題に対して、どのように取り組むべきかと考えますか。(回答は1つ)

- | | |
|-----------------------|----------------|
| ① 何も取り組む必要はない | ② 新規参入者の受入れ・支援 |
| ③ 農家子弟後継者(Uターン)の育成・支援 | ④ 企業参入の受入れ・支援 |
| ⑤ その他() | |

Ⅲ 栗山町が行っている農業・農村振興の取組についてお聞きします。

1. 栗山町が行っている農業・農村振興への取組の**重要度**についてお聞きします。
5段階評価のうち、あなたの考えに近いものに○をつけてください。

項目	重要である	やや重要	どちらとも いえない	あまり 重要でない	重要でない
(1) 農地問題	5	4	3	2	1
(2) 担い手の育成	5	4	3	2	1
(3) 農家経営安定	5	4	3	2	1
(4) 農畜産物の加工	5	4	3	2	1
(5) 農村景観造成	5	4	3	2	1
(6) 6次産業化への支援	5	4	3	2	1
(7) 法人化の推進	5	4	3	2	1
(8) 作業受託組織の育成・支援	5	4	3	2	1
(9) 新規就農者の受け入れ	5	4	3	2	1
(10) 農業研修生の受け入れ	5	4	3	2	1

2. 栗山町が行っている農業・農村振興への取組に対する、あなたの**満足度**についてお聞きします。

項目	満足である	やや満足	どちらとも いえない	あまり 満足でない	満足でない
(1) 農地問題	5	4	3	2	1
(2) 担い手の育成	5	4	3	2	1
(3) 農家経営安定	5	4	3	2	1
(4) 農畜産物の加工	5	4	3	2	1
(5) 農村景観造成	5	4	3	2	1
(6) 6次産業化への支援	5	4	3	2	1
(7) 法人化の支援	5	4	3	2	1
(8) 作業受託組織の育成・支援	5	4	3	2	1
(9) 新規就農者の受け入れ	5	4	3	2	1
(10) 農業研修生の受け入れ	5	4	3	2	1

※以下は「自由記入欄」です。

栗山町の農業についてご意見など、何でも結構ですから自由に記入してください。

6. 農業振興事業の実績

(1) 平成22年度～26年度【中山間第3期】

単位：円

項目	事業名	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
ブランド対策	景観向上モデル助成事業	100,000	100,000	0	0	0
	農の景観作物モデル支援事業	0	981,475	245,336	0	0
	栗山里山美しモデル事業	0	0	795,706	736,004	439,220
	都市農村交流活動助成事業	0	566,791	700,000	800,000	800,000
	優良品種種子生産活動助成事業	0	0	1,000,000	0	0
	特産農産物開発支援事業	0	0	0	847,523	792,286
	種馬鈴しょ有害病害虫対策助成事業	102,375	0	0	0	0
	耕畜連携拡大助成事業	0	0	0	0	300,000
	家畜防疫対策助成事業	100,000	0	100,000	0	26,360
	安全安心農産物出荷活動支援助成事業	0	0	0	864,000	705,000
	地域農産物加工助成事業	0	62,000	300,000	43,450	0
担い手対策	大規模拡大支援モデル対策事業	0	0	6,728,220	2,708,660	8,988,560
	農業後継者育成支援事業	0	0	0	0	6,480,000
	農業研修生宿泊施設整備事業	962,461	0	0	0	0
	農業新規参入者施設等導入助成事業	0	0	0	0	4,875,000
	農業研修受入支援事業	0	1,620,000	1,200,000	2,260,000	1,660,000
	共同利用施設導入利用助成事業	11,365,582	0	0	0	0
農地対策	生産基盤整備自力施行助成事業	0	4,653,000	10,001,000	9,221,000	0
	低コスト圃場整備助成事業	0	510,000	0	0	10,988,000
	低コスト圃場整備助成事業 規模拡大加算	0	0	0	0	855,000
	低コスト圃場整備助成事業 遊休農地加算	0	0	0	0	2,000,000
	低コスト圃場整備助成事業 新規参入加算	0	0	0	0	792,800
	面的集積農地整備助成事業	1,273,432	291,618	641,974	84,972	0
	離農跡地農地再生事業	0	0	0	0	17,435,648
	鹿侵入防護柵設置等助成事業	0	50,247,253	3,150,600	25,710,880	249,804
	農地災害復旧工事助成事業	0	2,490,000	3,325,000	627,000	2,150,000
	畑地新輪作体系確立モデル事業	0	0	250,000	1,250,000	1,537,500
	牧草地再生対策事業	0	0	0	0	348,000
他	協定集落運営総合管理費	868,520	754,910	678,910	183,240	12,096
合計		14,772,370	62,277,047	29,116,746	45,336,729	61,435,274

(2) 平成 27 年度～ 【中山間第 4 期・多面的】

単位：円

項目	事業名	平成 27 年度	平成 28 年度
ブランド対策	農村景観緑肥推進事業	-	5,137,000
	都市農村交流活動助成事業	800,000	800,000
	攻めの農業産地化支援事業	430,000	170,000
	安心安全農産物出荷活動支援助成	500,000	1,236,311
	耕畜連携拡大助成事業	2,000,000	1,000,000
	牧草地再生対策事業	912,155	684,000
	家畜防疫対策助成事業	0	100,000
担い手対策	農業後継者育成支援事業	6,480,000	1,920,000
	農業研修生受入支援事業	720,000	720,000
	農業新規参入者施設等導入助成事業	3,890,000	4,084,500
農地対策	低コスト圃場整備助成事業	7,947,000	8,829,000
	低コスト圃場整備助成事業 規模拡大加算	1,911,194	1,490,000
	低コスト圃場整備助成事業 遊休農地加算	1,000,000	0
	低コスト圃場整備助成事業 新規参入加算	100,440	1,729,000
	離農跡地農地再生事業	2,518,400	5,266,000
	鹿侵入防護柵設置等助成事業	3,866,832	4,879,500
	農地災害復旧等工事助成事業	496,000	680,400
	畑地新輪作体系確立モデル事業	2,840,000	4,884,000
	農地流動化特別対策事業	-	500,000
その他	中山間地域等直接支払交付金事業現地測量委託業務	2,629,800	0
	事務費	-	108,640
合計		39,041,821	44,218,351

7. 町公社評議員・理事・監事名簿

※平成 29 年 2 月 28 日現在

役 職 名	現 役 職	氏 名
評 議 員 会 長	栗山町長	椿 原 紀 昭
評 議 員 会 副 会 長	そらち南農業協同組合 代表理事組合長	北 輝 男
評 議 員	栗山町農業委員会会長	田 村 繁 則
評 議 員	栗山土地改良区理事長	桂 一 照
評 議 員	南空知農業共済組合 組合長理事	青 山 悟
評 議 員	栗山町農民協議会委員長	八 田 和 彦
評 議 員	空知農業改良普及センター 空知南東部支所長	石 川 卓 治
理 事 長	栗山町副町長	花 田 正 博
理 事 長 代 理	栗山町産業振興課長	森 英 幸
理 事	そらち南農業協同組合 営農部長	高 橋 浩
理 事	栗山町農業委員会事務局長	高 間 嘉 之
理 事	栗山土地改良区参事	道 順 和 彦
理 事	北海道大学大学院 農学研究院教授	柳 村 俊 介
理 事	農業者	國 岡 正 好
監 事	そらち南農業協同組合監事	川 畑 憲 吾
監 事	栗山町総務課長	片 山 伸 治

8. 栗山町農業振興推進委員名簿

◎：委員長 ○：副委員長 □：役員

自治会名	任期	
	第8期	第9期
	平成26・27年度	平成28・29年度
栗山農事	堂間 良一	堂間 良一
富士	◎馬場 雅己	高山 清明
中里	堀田 一司	堀田 一司
湯地	寺 雅彦	□寺 雅彦
森・鳩山	青木 剛克	○青木 剛克
雨煙別	小泉 弘人	小泉 弘人
緑丘	蛇谷 慎也	蛇谷 慎也
北学田	□塚本 政紀	中川 和政
桜山	柴田 貴浩	柴田 貴浩
杵臼	○西山 隆	青木 悟
旭台	清水 秀幸	滝沢 茂和
共和	斉藤 隆浩	斉藤 隆浩
三日月	武田 孝	□武田 孝
阿野呂・角田	澤田 稔	○澤田 稔
大井分	□田村 賢治	田村 賢治
南学田	○藤井 吉美	◎藤井 吉美
継立	本藤 力勢	櫻間 弘晃
日出	難波 博	山下 雪子
御園	山本 修	山本 修
南角田	堀田 一仁	堀田 一仁
円山	横山 延一	□横山 延一
東山	□土門 雅一	土門 雅一
滝下	川浦 孝治	川浦 孝治